

第48回 春日部市立桜川小学校 卒業証書授与式 式辞

春本番となりました。桜川小のシンボルである桜が、門出を祝うように咲く今日のよき日、春日部市長 岩谷 一弘 様、春日部市教育委員会 山本 智英 様のご臨席を賜り、卒業証書授与式を挙行できますことに、本校職員を代表し、感謝を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの表情からは、小学校課程を終えた喜びと、未来への希望を強く感じます。最後の最後に、マスクをとった皆さん一人一人の素敵な表情・笑顔を間近に見ることができて、とてもうれしく思います。

この1年間、皆さんは桜川小のリーダーとして、ハッピー桜っ子タイムや、通学班、クラブ、委員会活動で、下級生を支え、優しさをもって接するなど、よき手本となり続けてくれました。様々な学校行事が大成功を治めたのも、階段を登るように成長・進化し、リーダーシップを発揮した、皆さんのおかげです。また、日々教室を訪問すると、時に笑顔を見せながら、時に活発に議論しながら、時に真剣な眼差しで課題に集中しながら、一生懸命学習に取り組む皆さんの姿が、いつでもそこには、ありました。

そんな皆さんの姿はとても立派で、下級生の憧れであり、私の誇りです。校長として卒業証書を渡す、初めての学年が皆さんでよかった。心から、そう思います。

今日、この桜川小を巣立つ皆さんに、男子フィギュアスケートで、オリンピック2大会連続金メダルという偉業を成し遂げた、羽生結弦さんのエピソードを紹介します。

その輝かしい活躍で世界的なトップアスリートとなった羽生さんですが、彼が高校1年生の時に、地元宮城県で東日本大震災に遭い、実際に避難所生活を送っていたことを知る人は、どれぐらいいるのでしょうか。

羽生さんの、競技で勝ちたいという想いの中には、勝つことで「誰かのために」になりたい、という願いも込められていました。それは、「勝てば注目が集まる。震災からの復興の力になるためにも、自分は勝つしかない」という決意であり、震災の経験から、競技に対する「覚悟」を強く持つようになった、ということです。その後の彼の活躍は、説明をするまでもありません。

昨年7月、羽生さんは競技の場を離れ、プロのスケーターとなりました。そして、今も「誰かのために」という心を持ち、アイスショーに出演されています。あの東日本大震災から12年、同じうさぎ年である今年の3月11日、「被災地から希望を発信し、少しでも

人々が笑顔になれるきっかけに」との想いで、地元宮城県で特別なアイスショーを行ったことは、そのことを象徴しています。

人は一人では、生きてはいけません。今の自分が在るのは、寄り添い、見守り、支え、導き、そして、応援してくれる周りの人がいてくれるからこそです。そのことに改めて感謝の心を持ち、自分も誰かのために生きていく、羽生さんのエピソードは、その大切さに気づかせてくれます。

小学校卒業という節目を迎えた皆さんですが、人生はまだまだこれからです。困難に出会ったり、悩んだりすることもあるでしょう。そんな時は、周りの誰かを頼りながらも、未来へ向かって一步一步、笑顔を忘れずに歩み続け、いつの日か、周りの誰かを支えられる、素敵な大人になってほしい。桜川小学校は、いつまでも、皆さんの未来を応援しています。

結びに、保護者の皆様におかれましては、慈しみ、大切に育ててこられたお子様が無事、6か年の小学校過程を終え、立派な姿で今日の日を迎えられましたことに、感慨もひとしおのことと存じます。心よりお祝いを申し上げます。また、ご来賓並びに地域の皆様におかれましては、桜っ子の成長を温かく見守り、ご支援くださいますと、ありがとうございました。改めまして、心より感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらない、卒業生への激励とご支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和5年3月22日 春日部市立桜川小学校長 小野 誠